

松岡光治教授 略歴・業績

〈略 歴〉

学 歴

- | | |
|-----------|---|
| 1980年 3 月 | 広島大学文学部文学科英語学英米文学専攻卒業 |
| 1980年 4 月 | 広島大学大学院文学研究科（博士課程前期）英語学英米文学専攻入学 |
| 1982年 3 月 | 同上・修了（文学修士） |
| 1982年 4 月 | 広島大学大学院文学研究科（博士課程後期）英語学英米文学専攻進学 |
| 1985年 3 月 | 同上・満期退学 |
| 1996年 9 月 | University of Manchester (UK), Faculty of Arts, MPhil Course 入学 |
| 1997年11月 | 同上・修了（MPhil） |

職 歴

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1985年 4 月 | 鹿児島大学教養部英語科専任講師（1988年 3 月まで） |
| 1988年 4 月 | 鹿児島大学教養部英語科助教授（1992年 3 月まで） |
| 1992年 4 月 | 名古屋大学言語文化部英語科助教授（2002年 3 月まで） |
| 2002年 4 月 | 名古屋大学大学院国際言語文化研究科助教授（2003年 3 月まで） |
| 2003年 4 月 | 名古屋大学大学院国際言語文化研究科准教授（2004年 3 月まで） |
| 2004年 4 月 | 名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授（2017年 3 月まで） |
| 2008年 4 月 | 同上・国際多元文化専攻専攻長（2012年 3 月まで） |
| 2017年 4 月 | 名古屋大学大学院人文学研究科教授（現在に至る） |

〈業 績〉

著 書

- 1 *Dickens and the Anatomy of Evil: Sesquicentennial Essays*（編著）xiv+366頁, Athena Press, 2020.
- 2 『ディケンズとギッシング——底流をなすものと似て非なるもの』（編著）vi+298頁, 大阪教育図書, 2018.
- 3 『ギッシング初期短篇集』（単著）268頁, アティエナ・プレス, 2016.
- 4 *Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell: Sesquicentennial Essays*（編著）xxv+538頁, Osaka Kyoiku Tosho, 2015. 科研費補助金出版.
- 5 *Dickens in Japan: Bicentenary Essays*（共編）vi+229頁, Osaka Kyoiku Tosho, 2013.
- 6 『ヴィクトリア朝幽霊物語』（単著）334頁, アティエナ・プレス, 2013.
- 7 『ディケンズ文学における暴力とその変奏』（編著）xii+288頁, 大阪教育図書, 2012.
- 8 『涯』（共訳）186頁, ポプラ社, 2010.

- 9 『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』(編著) xxxvi+684頁, 溪水社, 2010年, 科研費補助金出版.
- 10 『ヴィクトリア朝文学における都市生活者の狂気: その社会的および心理的文脈の解明』(単著) 150頁, 平成17年度~19年度・科学研究費・研究成果報告書, 2008.
- 11 『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化』(編著) xiii+540頁, 溪水社, 2007. 科研費補助金出版.
- 12 『ディケンズ鑑賞大事典』(共編) 838頁(付録 CD-ROM 付), 南雲堂, 2007.
- 13 『ギッシングの世界——全体像の解明をめざして』(編著) xxii+404頁, 英宝社, 2002.
- 14 『ギヤスケルの文学——ヴィクトリア朝社会を多面的に照射する』(編著) xvii+308頁, 英宝社, 2001.
- 15 『インターネットと英語学習』(共編) iii+197頁, 開文社, 2001.
- 16 『ギヤスケル短篇集』(単著), 375頁, 岩波文庫, 2000.
- 17 『ヴィクトリア朝文学研究のワークステーション開設とマルチメディアテキストの開発研究』(単著) 75頁, 平成10年度~11年度・科学研究費・研究成果報告書, 2000.
- 18 *School Stories* (単著) v+98頁, 北星堂, 1992.

論 文

- 1 “‘I Can’t Help Writing It’: Maladies of the Penny Post in *Bleak House*.” *Dickens and the Anatomy of Evil: Sesquicentennial Essays*. 223–40. Athena Press, 2020.
- 2 “Preface.” *Dickens and the Anatomy of Evil*. iii–ix. Athena Press, 2020.
- 3 「イギリス近代都市生活者の自己否定・自己疎外・自己欺瞞」『ディケンズとギッシング』107–22. 大阪教育図書, 2018.
- 4 「ディケンズとギッシングの隠れた類似点と相違点」『ディケンズとギッシング』1–26. 大阪教育図書, 2018.
- 5 「ギヤスケルとディケンズ——郵政革命後の手紙と犯罪」(査読付)『比較で照らすギヤスケル文学』113–25. 大阪教育図書, 2018.
- 6 “‘There’s Good and Bad in Everything’: The Status Quo as a Necessary Evil in *North and South*.” (査読付) *Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell*. 225–39. Osaka Kyoiku Tosho, 2015.
- 7 “Introduction.” (査読付) *Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell*. 1–8. Osaka Kyoiku Tosho, 2015.
- 8 “Bedlam Revisited: Dickens and Notions of Madness.” (査読付) *The Dickensian*. 109.3. 225–39. The Dickens Fellowship, UK, 2013.
- 9 「あとがき」『ヴィクトリア朝幽霊物語』323–32. アティーナ・プレス, 2013.
- 10 “Dickens and Mind-forg’d Manacles: The Mechanisms of Memory, Love, and Madness.” (査読付) *Dickens in Japan: Bicentenary Essays*. 174–90. Keisuisha, 2013.
- 11 「『オリヴァー・トゥイスト』: 逃走と追跡——法と正義という名の暴力」『ディケンズ文学における暴力とその変奏』37–52. 大阪教育図書, 2012.
- 12 「抑圧された暴力のゆくえ」『ディケンズ文学における暴力とその変奏』1–20. 大阪教育図書, 2012.

- 13 “Dickens, Racism, and Chauvinistic Madness.” *The Japan Branch Bulletin*. 34. 45–51. The Dickens Fellowship of Japan, 2011.
- 14 「レッセ・フェール——楽観主義には楽観主義を」（査読付）『ギaskellで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』197–214. 溪水社, 2010.
- 15 「まえがきに代えて」（査読付）『ギaskellで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』xv–xxxvi. 溪水社, 2010.
- 16 「リアリズム再考——ギaskellはオースティンの娘か？」（査読付）『エリザベス・ギaskellとイギリス文学の伝統』11–21. 大阪教育図書, 2010.
- 17 “Madness and Ghosts: The Presentation of Childhood in *The Turn of the Screw* and *Great Expectations*.” Report: Category C of “Scientific Research” Grants (2005–2007). 87–98. 2008.
- 18 「都市——自分のいない場所がパラダイス」（査読付）『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化』95–111. 溪水社, 2007.
- 19 「まえがき」（査読付）『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化』i–vii. 溪水社, 2007.
- 20 「ディケンズの作品におけるイジメの問題」『年報』29. 103–117. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 2007.
- 21 「『大いなる遺産』」（査読付）『ディケンズ鑑賞大事典』333–52. 南雲堂, 2007.
- 22 「ディケンズの作品における自殺の諸相」『年報』29. 40–49. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 2006.
- 23 「英吉利古典翻譯文學のハイパー・マルチメディア・テキスト化」『多元文化と未来社会』185–204. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2005.
- 24 「著作権と情報発信——インターネット時代の英米文学研究」（査読付）『英語青年』平成17年1月号, 600–01. 研究社, 2004.
- 25 “Slips of Memory and Strategies of Silence in *A Tale of Two Cities*”（査読付）*The Dickensian*. 100.2. 111–20. The Dickens Fellowship (UK), 2004.
- 26 「ギッシング讃歌——没後百年によせて」（査読付）『英語青年』平成15年12月号, 546–49. 研究社, 2003.
- 27 「『三文文士』——貧乏作家はうだつが上がらない」『ギッシングの世界』109–32. 英宝社, 2003.
- 28 「ギaskellのユーモア——その萌芽と特質」（査読付）『ギaskell論集』13. 19–26. 日本ギaskell協会, 2003.
- 29 “Aestheticism and Social Anxiety in *The Picture of Dorian Gray*”『言語文化研究叢書』2. 77–100. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2003.
- 30 “George Gissing and Artistic Alienation.”（査読付）*Central Japan English Studies*. 22. 31–46. 中部英文学会, 2003.
- 31 “Gaskell’s Strategies of Silence in ‘The Half- Brothers.’”（査読付）*The Gaskell Society Journal*. 17. 50–58. The Gaskell Society (UK), 2003.
- 32 「ディケンズと芸術：社会の抑圧とそのイメージ」『言語文化研究叢書』1. 103–22. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2002.

- 33 「ギaskellの短篇小説における愛の諸相」(査読付)『ギaskell文学にみる愛の諸相』221-36. 日本ギaskell協会, 2002.
- 34 「リレー連載: 英語・英文学研究の課題(7): “When service sweat for duty, not for meed!”」(査読付)『英語青年』平成13年2月号, 703-05. 研究社, 2001.
- 35 「『メアリ・バートン』——語りと視点」『ギaskellの文学』35-60. 英宝社, 2001.
- 36 「身体/社会の断片化と想像力: *Our Mutual Friend*」(査読付)『広島大学英語英文学研究』43. 81-91. 広島大学英文学会, 1999.
- 37 「ディッケンズの沈黙の戦略: 『二都物語』」『イギリス小説ノート』11. 69-84. 南山大学文学部, 1999.
- 38 “Dickens and Memory.” (査読付) *Rivista di Studi Vittoriani*. 4.1. 33-57. Università degli Studi “G. d’Annunzio” (Italy), 1999.
- 39 「ディッケンズと狂気: 監禁, 群集, 記憶, 愛」『言語文化論集』20.2. 179-97. 名古屋大学国際言語文化研究科, 1999.
- 40 「革命における愛憎の流動化: *A Tale of Two Cities*」『言語文化論集』20.1. 109-18. 名古屋大学国際言語文化研究科, 1998.
- 41 “Gaskell Studies and the Internet” (査読付) *The Gaskell Society Journal*. 11. 86-95. The Gaskell Society (UK), 1997.
- 42 「意識的/無意識的誤解としての自己欺瞞: ディッケンズの場合」『名古屋大学特定研究シリーズ』5. 187-205. 名古屋大学国際言語文化研究科, 1995.
- 43 「『二都物語』における流動性: 革命の不可避性と時間の不可逆性」『イギリス小説ノート』9. 29-43. 南山大学文学部, 1994.
- 44 “*Little Dorrit*: Strategies of Paradox in the World Upside Down.” *Memoirs by the Department of Liberal Arts of Kagoshima University*. 27. 93-124. 鹿児島大学教養部, 1991.
- 45 「*A Christmas Carol* における光と闇の諸相」(査読付)『英語英文学研究』35. 37-50. 広島大学英文学会, 1990.
- 46 「ディッケンズとヘンデル」『会報』13. 7-9. ディッケンズ・フェロウシップ日本支部, 1990.
- 47 「スクルージの想像力について」『英語英文学論集』21. 77-110. 鹿児島大学教養部, 1990.
- 48 「「光」と「闇」のイメージ——Charles Dickens の小説を中心に」*New Volcano*. 13. 5-8. 鹿児島大学法文学部, 1989.
- 49 「*Little Dorrit* における Arthur Clennam の罪悪感」『英語英文学論集』20. 193-243. 鹿児島大学教養部, 1989.
- 50 「John Jasper の犯罪心理」(査読付)『松元寛先生退官記念論文集』186-93. 英宝社, 1987.
- 51 「*The Mystery of Edwin Drood* における「死」と「生」」『英語英文学論集』18. 69-100. 鹿児島大学教養部, 1987.
- 52 「*Great Expectations* における作品構成と「手」のイメージ」*Phoenix*. 25. 107-38. 広島大学文学研究科, 1985.
- 53 「*Great Expectations* における「力」と「所有」への欲求」*Phoenix*. 23. 59-86. 広島大学文学研究科, 1984.
- 54 「*David Copperfield* 論——悪の心理的考察」*Phoenix*. 21. 61-82. 広島大学文学研究科, 1983.

翻 訳

- 1 「安らかに眠れ」 ジョージ・ギッシング (著) 『言語文化論集』 37.2. 19-34. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2016.
- 2 「高すぎた代価」 ジョージ・ギッシング (著) 『言語文化論集』 37.1. 19-33. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2015.
- 3 「糸を紡ぐグレートヒェン」 ジョージ・ギッシング (著) 『言語文化論集』 35.2. 1-12. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2014.
- 4 「親の因果が子に報う」 ジョージ・ギッシング (著) 『言語文化論集』 35.1. 27-42. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2013.
- 5 「窓をたたく不思議な音」 ダイナ・マロック (著) 『言語文化論集』 32.1. 1-16. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2010.
- 6 「ジェロメット嬢と牧師」 ウィルキー・コリンズ (著) 『言語文化論集』 31.2. 1-25. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2010.
- 7 「巻頭言」 J・ヒリス・ミラー (著) 『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』 vii-xiii. 溪水社, 2010.
- 8 「鉄道員の復讐」 アミéria・エドワーズ (著) 『言語文化論集』 31.1. 1-21. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2009.
- 9 「ギヤスケルの方言使用とディケンズへの影響」 パトリシア・インガム (著) 『言語文化論集』 30.2. 19-34. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2009.
- 10 「リビー・マーシュの三つの祭日」 エリザベス・ギヤスケル (著) 『言語文化論集』 29.1. 41-72. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2007.
- 11 「オンジエ通りの怪」 J・S・レ・ファニュ (著) 『言語文化論集』 28.1. 1-25. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2006.
- 12 「クライトン館の謎」 メアリ・エリザベス・ブラッドン (著) 『言語文化論集』 27.1. 11-34. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2005.
- 13 「殺人裁判」 チャールズ・ディケンズ (著) 『言語文化論集』 26.1. 13-26. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2004.
- 14 「没後100 年におけるギッシング批評の進展」 ピエール・クスティヤス (著) 『言語文化論集』 25.1. 189-208. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2003.
- 15 「ギッシングの生涯と作品 (後)」 ジェイコブ・コールグ (著) 『言語文化論集』 24.2. 245-57. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2003.
- 16 「ギッシングの生涯と作品 (前)」 ジェイコブ・コールグ (著) 『言語文化論集』 24.1. 251-64. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2002.
- 17 「ギヤスケル研究100 年の歩み」 ジョン・A・V・チャプル (著) 『ギヤスケルの文学』 23-33. 英宝社, 2001.
- 18 「ギヤスケル夫人の生涯と作品」 エドガー・ライト (著) 『言語文化論集』 21.1. 1-16. 名古屋大学国際言語文化研究科, 2000.
- 19 「ジョン・ミドルトンの心」 エリザベス・ギヤスケル (著) 『言語文化論集』 19.1. 1-28. 名古屋大学国際言語文化研究科, 1997.

- 20 「婆やの話」 エリザベス・ギヤスケル（著）『言語文化論集』17.1. 1-14. 名古屋大学国際言語文化研究科, 1995.
- 21 「リジー・リー」 エリザベス・ギヤスケル（著）『言語文化論集』16.2. 1-34. 名古屋大学国際言語文化研究科, 1995.
- 22 「チーズマン爺さん」 チャールズ・ディケンズ（著）『英語英文学論集』23. 31-46. 鹿児島大学教養部, 1992.

その他

- 1 “Hélène, the Power behind the Throne of King Pierre.” *The Gissing Journal*. 54.3. 10-12. The Gissing Trust (UK), 2021.
- 2 “The Immortal Coustillas: Pierre in Memory.” *The Gissing Journal*. 52.4. 28-30. The Gissing Trust (UK), 2018.
- 3 “The Dickens Fellowship of Japan: Annual General Meeting: “Dickens and Gissing.”” *The Gissing Journal*. 52.1. 48-52. The Gissing Trust (UK), 2018.
- 4 「ギヤスケル文学発祥の地の愉しみ」 *mr partner*. 22. ミスター・パートナー社, 2017.
- 5 “Personal Plaudits for the Greatest Scholar of Gissing Studies.” *The Gissing Journal*. 49.3. 13-14. The Gissing Trust (UK), 2013.
- 6 ““The CD’s CD-ROM Was Not Built in a Day.” *The Japan Branch Bulletin*. 30. 91-95. The Dickens Fellowship of Japan, 2007.
- 7 “Hiroko Ishizuka, Victorian no Chichukai” (Book Review). *The Gissing Journal*. 41.1. 30-34. The Gissing Trust (UK), 2005.
- 8 「ディケンズ作品のハイパー・コンコーダンス」『会報』27. 55-61. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 2004.
- 9 「ギッシング関連情報」『ギッシングの世界』341-65. 英宝社, 2003.
- 10 「ギッシング年譜」『ギッシングの世界』367-74. 英宝社, 2003.
- 11 「サイト内検索とコンコーダンス」『会報』26. 94-97. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 2003.
- 12 「日千尺（編）『ギヤスケル小説の旅』（鳳書房）」（書評）『英語青年』平成15年3月号. 769-70. 研究社, 2003.
- 13 “Video-on-Demand Virtual Conference.”『英語青年』平成14年8月号. 62. 研究社, 2002.
- 14 「ギヤスケル関連情報」『ギヤスケルの文学』263-76. 英宝社, 2001.
- 15 “Homepage, Sweet Homepage.”『ニューズレター』13. 3. 日本ギヤスケル協会, 2001.
- 16 “Expert sets up literary Web site.” *The Japan Times*. 12 October 2000. 6. The Japan Times, Ltd., 2000.
- 17 「論文の電子化について」『会報』22. 37-39. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 1999.
- 18 “Articles Published in *Gaskell Society Journal*, vols. 1-13.” *The Gaskell Society Journal*. 13. 118-21. The Gaskell Society (UK), 1999.
- 19 「インターネットとディケンズ研究」『会報』21. 2-4. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 1998.

- 20 “Mrs Gaskell, star of the small screen.” *The Guardian*. 4 December 1996, 5. Guardian Media Group (UK), 1996.
- 21 「インターネットとホームページ」『英語青年』平成8年2月号, 51. 研究社, 1996.
- 22 「インターネット上のディケンズ」『会報』18. 4-7. ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 1995.

科学研究費

- 1 「ヴィクトリア朝の時代精神とディケンズ文学における脅迫の社会心理学的研究」令和3年度～5年度, 基盤研究 (C), 課題番号: 21K00386.
- 2 「ヴィクトリア朝文学における郵政改革の影響とそれに伴う犯罪の社会心理学的研究」平成29年度～令和2年度, 基盤研究 (C), 課題番号: 17K02497.
- 3 *Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell: Sesquicentennial Essays*. 平成28年度研究成果公開促進費, 課題番号: 15HP5053.
- 4 「ヴィクトリア朝の文学テキストによる自殺の社会的・心理的要因の解明」平成24年度～27年度, 基盤研究 (C), 課題番号: 24520278.
- 5 「ギャスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化」平成22年度研究成果公開促進費, 課題番号: 225059.
- 6 「ヴィクトリア朝文学に見られるイジメの社会的および心理的文脈の研究」平成20年度～23年度, 基盤研究 (C), 課題番号: 20520221.
- 7 「ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化」平成19年度研究成果公開促進費, 課題番号: 195043.
- 8 「ヴィクトリア朝文学における都市生活者の狂気: その社会的および心理的文脈の解明」平成17年度～19年度, 基盤研究 (C), 課題番号: 18520162.
- 9 「ヴィクトリア朝文学研究のワークステーション開設とマルチメディアテキストの開発研究」平成11年度～12年度, 基盤研究 (C), 課題番号: 10610469.

学会および社会における活動

- 1 ディケンズ・フェロウシップ日本支部 (理事: 1998年10月～2019年9月)
- 2 ディケンズ・フェロウシップ日本支部 (ホームページ担当委員: 1998年12月～現在に至る)
- 3 日本ギャスケル協会 (理事: 2000年4月～現在に至る)
- 4 日本ギャスケル協会 (ホームページ担当委員: 2000年9月～現在に至る)
- 5 The Gissing Trust, UK: *The Gissing Journal* (Editorial Board: 2003年10月～現在に至る)
- 6 日本ヴィクトリア朝文化研究学会 (理事: 2005年10月～2016年9月)
- 7 日本ヴィクトリア朝文化研究学会 (ホームページ担当委員: 2005年10月～2018年9月)
- 8 日本ギャスケル協会 (編集委員: 2007年4月～2009年3月, 2018年4月～現在に至る)
- 9 The Gaskell Society, UK: *The Gaskell Journal* (Editorial Board: 2010年10月～現在に至る)
- 10 ディケンズ・フェロウシップ日本支部 (編集委員: 2013年10月～2017年9月)
- 11 日本ギャスケル協会 (副会長: 2018年4月～現在に至る)



松 岡 光 治 教 授